

長期留学・海外インターンシップチャレンジ奨学金報告書

2026年8月22日

国際経営学部 国際経営学科 4年

オ ジンソル

はじめに

私は2025年9月から2026年7月までの10ヶ月間、イタリアのミラノ・ビコッカ大学で交換留学をさせていただきました。本報告書では、留学中に取り組んだ学習内容、現地での生活や経験を通じて得た学びについてご報告いたします。

このような貴重な留学の機会を得られたのは、国際経営学部の教授方、事務室の方々、そして、ご支援をいただいたすべての方々のおかげです。ここに改めて、支援をくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。

留学前

長期留学の主な目的は、英語力の向上と、将来グローバルに活躍できる人材になることでした。英語を日常的に使用する環境に身を置き、さまざまなバックグラウンドを持つ人々と交流しながら、実践的な英語力を身につけたいと考え、留学を決意しました。その中で、私がイタリアのミラノ・ビコッカ大学を留学先として選んだ理由は、主に2つあります。

まず、充実したカリキュラムと国際的な学習環境です。ビコッカ大学では、交換留学生在が履修できる授業が150科目以上あり、さまざまな科目を通して経営学について幅広く学ぶことができます。また、毎年約2,200人の留学生を受け入れており、多様な国や文化的背景を持つ学生と交流しながら、自分の視野を広げられる環境が整っている点にも魅力を感じました。

次に、英語だけでなく、イタリア語も学ぶことができる環境です。ビコッカ大学では英語で開講されている授業が多い一方、大学外の日常生活や現地の人々との交流ではイタリア語を使用する機会があります。そのため、英語力を向上させるだけでなく、現地の言語や文化にも積極的に触れることで、より幅広いコミュニケーション能力を身につけたいと考え、イタリア・ミラノへの留学を決定しました。

学習について

ミラノ・ビコッカ大学は、イタリア北部のミラノに位置する国立大学で、経済学や経営学、社会科学、理工学など幅広い分野で教育・研究を行っています。ミラノという国際的な都市に位置し、さまざまな国から学生が集まる国際色豊かな環境も特徴です。私は本大学で「Global Marketing」、「Global strategy」、「History of Globalization」、「Economics of Financial Markets」など、国際ビジネスやマーケティングに関連する授業を履修しました。

前期は「Global Marketing」と「Global Strategy」の2つの大学院科目を履修し、計12ECTSを取得しました。授業では、LEGO、McDonald's、lululemonなどのグローバル企業を取り上げ、それぞれの企業がどのようなマーケティング戦略・経営戦略を立案し、実際に行っているのか、また、その過程における成功事例や失敗事例について分析しました。この授業の大きな特徴は、学生が主体的に授業に参加できる環境が整っていることです。授業中には教授と学生が自由に意見を交換しながらディスカッションを行い、毎週、グループでPPTを作成して発表する活動もありました。自分の意見を発言したり、プレゼンテーションを行ったりする機会が多く、授業に能動的に参加することができました。このような授業形式は、教授による講義を中心に進められることが多い日本の大学の授業とは異なっており、新鮮に感じました。試験はOral Test形式で行われました。1学期間に学んだ授業内容とFinal Reportをもとに、教授と一対一で試験を受けました。単に授業内容を暗記するのではなく、授業で学んだ経営理論を実際の企業事例と結び付けて説明することが求められました。そのため、学んだ知識を実際の事例に応用し、自分の言葉で説明するスキルを身につけることができました。大学院科目であったため、日本でこれまで履修してきた学部の授業と比べて、より高度な知識や実践的な思考力が求められたと感じています。特に、授業の進行が速く、内容も難しかったため、当初は授業についていくことに苦労しました。しかし、積極的に授業に参加し、自ら学習することを続ける中で、学業面においても大きく成長することができました。また、現地の大学院生と学ぶ中でさまざまな意見や考え方に触れることができたことは、非常に貴重な経験でした。

後期は「History of Globalization」と「Economics of Financial Markets」の2科目を履修し、計14ECTSを取得しました。留学生活を通してヨーロッパの歴史や文化に興味を持つようになったこと、また、これまで自分が苦手意識を持っていた経済分

野の知識を補いたいと考えたことから、これらの科目を選択しました。「History of Globalization」では、ヨーロッパがどのような歴史的過程を経てグローバル化してきたのかについて、社会と経営の両方の観点から学ぶことができました。授業ではヨーロッパと他地域との交流だけでなく、日本や韓国に関する内容も扱われ、ヨーロッパから見た日本や韓国に対する認識や、これまでどのような交流が行われてきたのかを知ることができ、とても興味深く感じました。また、授業で学んだ内容を意識しながらEU本部やヨーロッパのさまざまな場所を実際に訪れることで、歴史的・社会的背景をより具体的に理解することができました。教室で学んだ知識を実際の経験と結び付けることができたという点でも、非常に有意義な授業でした。「Economics of Financial Markets」は、1年次に履修した「経済学入門」の延長として選択した科目です。「経済学入門」では経済市場全体の基本的な概念や仕組みについて学びましたが、本授業では、金融市場における貨幣の価値や金利などがどのような要因によって変化するか、また、さまざまな経済状況の中でどのように変動するかについて、より詳しく学びました。その結果、金融市場についての基礎的な理解をさらに深めるとともに、経済現象を捉える視点を広げることができました。

2学期間を通してさまざまな分野の授業を履修したことで、専攻に関連する実践的な知識を得ることができました。また、単に知識を身に付けるだけではなく、ディスカッションやプレゼンテーション、ケース分析、Oral Testなどを通して、学んだ知識を自分で考え、実際の事例に応用する力を身に付けることができました。特に、慣れない環境の中で難易度の高い授業に取り組んだ経験を通して、学業に対する自信と、新しいことに積極的に挑戦する姿勢を身に付けることができた点は、今回の留学における大きな学びの一つでした。

生活について

留学中は、大学近くにある私設の学生寮の2人部屋で生活しました。部屋にはベッド、机、トイレ、シャワーが備え付けられており、電子レンジや冷蔵庫も設置されていたため、簡単な調理をすることもできました。また、共用キッチン、自習室、ジムなどの設備も整っており、生活する上で大きな不便を感じることはありませんでした。寮では、自分でパスタを作ったり、友人と映画を見たりするなど、日常生活の中でも

交流を深めることができました。ルームメイトがイタリア人だったこともあり、共同生活を通してイタリアの文化や生活習慣について学ぶ機会が多くありました。また、現地での生活に関する情報を教えてもらうなど、日常的な交流を通してイタリアへの理解を深めることができました。大学内にはカフェテリアや図書館などの施設があり、授業後に友人と学食を食べたり、図書館で勉強することができました。大学周辺にはスーパーマーケットやレストラン、映画館などもあり、生活に必要な施設が揃っていたため、充実した生活を送ることができました。また、トラム、バス、地下鉄などの公共交通機関を利用すれば、ミラノ中心部や主要な観光地まで約30分で移動することができました。そのため、授業後に市内を観光したり、公園で友人とピクニックをしたりするなど、勉学と余暇を両立した生活を送ることができました。



(図1 イタリアで友達と料理)



(図2 ミラノDuomo観光)



(図3 友達とピクニック)

留学開始時には、交通機関のストライキによりオリエンテーションが中止となり、他の交換留学生や大学に関する情報を得ることが難しい状況でした。そのため、受け身で情報を待つのではなく、自ら積極的に交流の機会を作ることを意識しました。特に、交換留学生向けの学生団体であるESNのイベントに積極的に参加しました。ピクニックや「Italian Gesture」、パーティーなどのイベントを通して、さまざまな国から来た学生と交流し、イタリアの文化について学ぶことができました。また、K-POPパーティーやハロウィンパーティーなどにも参加することで、多様な国籍の学生と知り合うことができました。こうした交流を重ねる中で、親しくなった友人とカフェに行ったり、旅行をしたりするなど、国際的な友人関係を築きました。異なる文化背景を持つ人々との交流を通して、英語によるコミュニケーションの重要性和楽しさを

実感し、英語学習に対する意欲もさらに高まりました。



(図4 ESNイベントに参加)



(図5 ハロウィンパーティー)

また、ヨーロッパは国境を越えた移動が比較的容易であるため、留学期間中には様々な国を訪れることができました。バスや鉄道などを利用して、スイス、フランス、ドイツなどの周辺国を旅行しました。さらに、ヨーロッパには無料または比較的安い料金で利用できる美術館や博物館も多く、これまで教科書や映像を通してしか見たことのなかった著名な作品を実際に鑑賞する機会にも恵まれました。授業のない期間には、友人と旅行したり、一人でさまざまな国を訪れたりしました。冬にはドイツのクリスマスマーケットを訪れ、アイスランドではオーロラを鑑賞するなど、ヨーロッパで生活したからこそ経験できたことも多くありました。また、旅行先で新たな友人を作り、さまざまな人々との交流を通して、自分とは異なる価値観や考え方に触れることができました。これらの経験を通して、これまでとは異なる視点から世界を見ることができるようになり、自分自身の価値観を広げるきっかけとなりました。



(図6 アイスランドのオーロラ)



(図7 ミラノでオリンピック観戦)



(図8 フランスパリ旅行)

イタリアでは、留学目的の滞在許可証を所持する留学生は、原則として週20時間ま

でアルバイトをすることが認められています。イタリアでの生活に慣れた後、現地で新たな経験を得たいと考え、アルバイトを始めました。英語、イタリア語、日本語を使用する機会の多い日本食レストランで勤務し、日本での留学経験を生かして、日本の文化や日本食の魅力をヨーロッパの人々に伝えることができました。日本食と文化を自分自身の経験をもとに紹介できたことは、非常に意義のある経験でした。アルバイトでは、さまざまな国籍のお客様やスタッフと接する機会があり、実際の職場環境で外国語を使用することで、語学力を実践的に向上させることができました。また、海外で働く経験を通して、日本とは異なる仕事の進め方やコミュニケーションの取り方についても学ぶことができました。さらに、イタリア人の食文化や食事のマナーなど、日常の留學生活だけでは知ることのできなかった文化についても理解を深めることができました。この経験を通して、現地の人々とより積極的にコミュニケーションを取りたいという思いが強くなり、イタリア語をさらに学びたいという新たな学習意欲にもつながりました。アルバイトは、語学力の向上だけでなく、異なる文化の中で働く経験を得る貴重な機会となりました。

私は3年次後期から1年間の交換留学を行ったため、日本での就職活動の時期と留學期間が重なりました。そのため、留學先からオンラインで就職活動を進めました。時差の影響により、面接が深夜や早朝に実施されることもあり、スケジュールの調整には苦労しましたが、多くの企業がオンラインで選考を実施していたため、海外に滞在しながらでも大きな支障なく就職活動を進めることができました。その結果、交換留學期間中に内定をいただき、就職活動を終えることができました。その過程で、交換留學を通して海外で生活するだけでなく、将来は海外で働くことにも関心を持つようになりました。異なる文化の中で生活し、さまざまな国籍の人々と交流した経験を通して、海外で働くことへの興味が具体的な目標へと変化しました。そのため、就職活動においても留學中に得た経験や気づきを踏まえながら、自分の将来のキャリアについて考えることができました。

留學での学び

今回の交換留學では、大学での学業だけでなく、現地での生活、国際的な交流、旅行、アルバイト、就職活動など、さまざまな経験をすることができました。異なる文化や価値観を持つ人々と関わる中で、自分の考え方や価値観を見つめ直す機会も多く、

以前よりも広い視野を持つことができるようになったと感じています。また、慣れない環境の中で自ら行動することで、新しい環境に適応する力や積極的に挑戦する姿勢も身に付けることができました。特に、海外で生活し、働く経験を通して、将来は海外でも働いてみたいという新たな目標を持つようになりました。今回の留学で得た経験や学びを今後の大学生活や就職後にも生かし、自分の可能性をさらに広げていきたいと考えています。このような点から、今回の交換留学は、学業面だけでなく、自分自身の成長や将来の進路を考える上でも非常に有意義な経験となりました。

おわりに

1年間の留学生生活を振り返ると、最初は期待と不安の両方を抱えながらミラノでの生活を始めましたが、振り返れば一日一日が貴重な思い出となりました。思い通りにいかないことや困難に直面することもありましたが、その一つ一つを乗り越える中で、多くの人に支えられていることを実感しました。特に、現地で出会った友人や先生方と過ごした時間は、帰国した今でも大切な思い出として残っています。また、留学生生活を最後までやり遂げることができたのは、自分一人の力だけではなく、留学を支えてくださった多くの方々のおかげだと感じています。このような貴重な機会を与えてくださった国際経営学部の皆様をはじめ、留学の準備から帰国まで支えてくださった大学関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。また、現地で出会い、さまざまな場面で支えてくださった友人や先生方にも、深く感謝しています。ミラノで過ごした1年間で得た出会いや思い出、そして多くの経験をこれからも大切にし、今後も新しい環境に挑戦し、自分自身の可能性を広げていきたいと思います。